

(様式2)

令和3年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
高3	川崎市立川崎総合科学高等学校 全日制	荒井利之

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・真理を探究し、高邁な人格の育成に努める。</li> <li>・教養を高め、豊かな創造力と健全な批判力の育成に努める。</li> <li>・科学・工業の知識と技術を習得し、勤労を愛する精神の育成に努める</li> <li>・身心を鍛錬し、明朗にして良識ある社会人の育成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)教職員の資質・能力向上と学校組織の活性化</li> <li>(2)学習指導・生活指導・進路指導の一体化による学校生活の充実</li> <li>(3)開かれた学校、信頼される学校づくりの推進</li> <li>(4)安全・安心で快適な学習環境整備と危機管理</li> <li>(5)適正かつ計画的な学校事務の遂行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)指導と評価の一体化</li> <li>(2)専門教育の修得を支えるための基礎学力の向上</li> <li>(3)積極的な入学者募集活動とその効果的な方法の構築</li> <li>(4)GIGAスクール構想に伴うICT活用の活性化</li> <li>(5)社会に開かれた教育課程実現のための外部人材との連携</li> <li>(6)教職員の健康保全のための働き方改革</li> <li>(7)新型コロナ感染防止対策</li> </ul>

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	教育課程 学習指導1	本校に求められる学力を目標化し、理解の定着と学力の伸長を目指した授業の工夫と改善を図る。 新学習指導要領に向けた指導と評価に対する研修・研究授業等	新学習指導要領を踏まえて、本校に求められる学力の定着や将来を見据え学力向上委員会により計画的な取り組みを行った。より良い教育課程の在り方について意識が高まりつつある。	年次進行の新学習指導要領に応じた授業・指導に工夫をし、生徒一人ひとりの状況に適切に対応するとともに、主体的・対話的で深い学びを得られる授業づくりの研修を深める。
2	教育課程 学習指導2	科の特性をふまえ、実践力と意識の伸長を目指した専門教育を推進する。	生徒や保護者の期待に応える専門的な知識や技術の向上に努める。さらに本校ならではの専門教育の将来像を探る中で課題意識が高まっている。昨年に引き続き校外での見学や職場体験が制約される中で一定の成果を出すことができた。	生徒や保護者の高い専門教育への意識に応える授業づくりを、今後とも継続して研究し取り組む。今後求められる各科・各教科が専門性を追求すると同時に、それを支える生徒の基礎学力や学ぶ意欲の伸長を図る努力を継続する。
3	人権尊重 教育	すべての学校教育活動において、人権尊重教育を推進している。生徒の人権尊重意識の伸長を図る。	『暴力・いじめ防止』月間の取り組みで、生徒よりスローガンを募集してポスターの制作・掲示を行い、啓発活動に努めた。今後とも継続して教員側の人権意識を高めるための研修が必要である。	コロナ禍において十分な研修を行うことができなかったが、リモート研修等も十分に活用し、来年度に向けて、教員の研修に力を入れたい。また、引き続き人権感覚を養うことに力を入れたいと考える。
4	生徒指導1	特別活動の充実を図り、生徒の自主性・主体性の育成を図る。	本校生徒に求められる資質・能力に即して特別活動に関する目標を持たせ、生徒会行事の充実を目指して活発に活動しており、学級活動、学年行事等も活性化している。	生徒会本部役員を中心とした委員会、実行委員会、部活動、各クラスがより連携を深め、充実した活動ができるように、組織作り、環境作り等をより積極的に支援していく。
5	生徒指導2	規範意識を育て、規律ある学校生活の充実を図る。	学校生活のルールについては時代に即した取り組み行いながら生徒指導に当たっている。	一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目標とする。また、全職員により一層の共通理解を図るために研修会を実施し生徒指導に当たる。
6	学校教育 相談	生徒理解の姿勢に立って生徒と適切に向き合い、生徒の相互理解を促進する。	生徒にとって、困ったときに相談できる対象に教師が挙げられていないが、相談をしやすい存在としては認識されている。教師においても生徒理解の重要さは意識が高く、課題意識もある。	日常の学校生活の中で、全教員が相談しやすい存在であるため、多様化する業務内容と生徒との関わりの時間確保のバランスを取っていく。
7	心の教育	生徒の人間関係能力の伸長を図る。共生*共育プログラムを計画的に実施する。生徒の社会性、思いやり、生命尊重の心等の道徳性の伸長を図る。	多様化する価値観をお互いに尊重しあいながら学校生活を送っている生徒が多い。引き続き他者を尊重しながら自らの気持ちを伝え良好な関係を築いていけるように教師側の働きかけが必要である。	『共生・共育プログラム』をはじめ多様性を尊重しあいながら社会・世界と関わり、より良い人生を送れる力を育む指導とそれに伴う研修やモデルの構築が課題である。
8	健康管理	生活習慣に対する生徒の意識の向上を図り、健康で、自他を大切にしようとする心の育成を図る。	コロナ感染症防止に積極的に取り組むなど昨年同様、健康への意識を高めることができた。また、スマートフォン等の端末の利用については依存度が年々増加し、長時間利用に対して健康面での指導が今後必要である。	自己を大切にす姿勢を育てる取り組みは、更に工夫を重ね継続していく。生活習慣を自律的に管理できることを目標に、家庭とも連携しながら取り組む努力を継続する。また、ICT教育が進められる中、端末の依存に関する研修を積み、正しい利用を促していく。
9	安全管理	生徒の健康・安全を守る教職員の意識を高め、事故の防止を図る。	防災に関する意識付けを継続していくとともに、今年度もコロナ感染症防止に積極的に取り組むなど健康の意識を高めることができたのではないかと。	適切な避難行動を当たり前に行えることを目的とした避難訓練は継続する。想定を超える自然災害を想定し、地域・家庭なども連携しながら、ここ数年低迷している防災意識を育む努力を継続していく。

10	進路指導	生徒・保護者・教師の連携のとれた指導体制の充実を図り、生徒の将来目標の具体化・明確化を促進し、希望の進路実現を果たす。	多様な進路に対応するべく進路指導部を中心とした計画的で、具体的な取り組みが継続され、各科・学年と連携をとることにより成果をあげている。	進路指導計画、企業訪問、職場体験などの実施、就職者、公務員受験者、進学者への細やかな対応等、進路指導部の努力、取り組みが継続できる環境整備が必要である。
11	特別支援教育	特別な教育ニーズを持つ生徒への理解を深め、個を大切にした指導を充実させる。	特別支援教育への理解が深まり、個々の状況に応じた相談や支援が行われている。個々の課題意識が高まっている反面、組織的な対応に引き続き研修していく必要がある。	生徒の困り感に寄り添い、情報の共有化と目標をもって具体的な支援につなげるためのケース会議を開催するなど、校内組織体制、研修機会の構築・活性化をさらに図る。
12	いじめ防止	いじめを許さない学校環境の整備に努める。	年に2回いじめに関する実態調査を行い定期的・継続的にいじめを許さない雰囲気や、情報収集と迅速な対応ができるシステムが構築されている。	生徒からの声と教育相談から適切に機能している現在の体制を継続していく。いじめに対して早期に適切な対応をすることによって、さらにいじめを認めない環境が育つため、今後も継続した取り組みをしていく。
13	教育環境整備	学校生活の充実を図るために、学校全体の環境整備にとりくむ。	環境の整った教室で学び、経年劣化による不具合に対して今年度は空調設備更新やトイレの改修が行われた。次年度はコンピュータ・ネットワーク環境整備が行われる。	教師と生徒が共に行う短い時間での清掃活動ではあるが、毎日の積み重ねが心を育てる地道な教育活動として、今後もしっかり取り組んでいく。
14	研修	授業改善や教員の資質の向上を図るために、校内・校外研修の充実と整備を図る。	ICTを活用したりリモートの研修が増えたが、思うような校内研修が出来なかった。資質や指導力向上のための校外研修に参加しやすい環境と内容の検討が必要である。	新学習指導要領、ICT教育等生徒のニーズに対応した指導等、教師の資質・指導力を高めるべき諸課題は大変多い。教師の成長につながる研修への参加時間・体制の確保が必要である。研修を受けた教師から他の教師への情報伝達・共有などを図り、教師のスキルアップに繋げていく。
15	情報管理	学校教育が円滑に機能・運営されるような組織運営を図る。	適切な情報管理についての意識向上は数年にわたる課題であるため、個人の意識向上はもちろんのこと、組織的な管理方法についてさらなる構築が必要である。また、ICT教育に向けて情報管理の整備が急務である。	多様化する情報管理へ適切な管理の徹底を継続する。情報管理への意識向上を図るため、定期的にチェックをするなど対策を講じる。組織的な管理を実施する。
16	教育目標	これまでの伝統と特性の上に立ち、さらに求められる学校としてあることを目指して、教育重点目標を設定する。	教育目標に基づいて、組織的な取り組みがなされている。さらに魅力的な学校となるために、求める生徒像を実現するための資質・能力の育成についての具体的な指導場面について教職員で共通理解を図った。	学校の将来像を見据えたこれまでの議論をもとに、生徒の資質・能力の育成に向け、適切な目標設定を指導場面に応じて活用してPDCAサイクルを遂行していく。
17	保護者・地域との連携	地域社会との連携を重視した開かれた学校づくりを推進するための取組を充実させる。	コロナ禍ではあるが、可能な限り地域社会の行事に参加し努力をしている。通常の地域活動が開催された際の新たな取り組みの工夫が求められている。	現在のコロナ禍において地域社会への連携や参画の場面が少なくなっているが、様々な形を模索しより一層開拓していく。
18	情報提供	開かれた学校であることを目指して、学校の情報を発信し、保護者や地域社会の学校教育への参画と理解を図る。	本校の教育活動の内容や成果を発信する努力は、各部署で継続的に行われている。今後は情報発信として学習支援システム等を活用するなど新たな手法を模索していく。	今年度の活動を継続しつつ、ICTを活用し新たな情報発信方法を活用して外部の理解を得られるようなより良い情報発信を目指す。
19	学校評価	教育活動の充実を図るための、適切な学校評価のあり方を研究する。	現在の本校の現状を捉え、より魅力的な学校にするための課題を探る役割を果たしているが、より一層の取り組みが必要に思われる。	学校評価結果を踏まえて、各部署での分析・考察を行い、評価認識を高めるためにその共有化を丁寧に行っていく、学校評価システムの有用性を図る。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>昨年引き続きコロナ感染症対策のため、外部評価委員会は開催できなかつた。昨年までの学校評価を踏まえて学校運営に取り組んだ。</p>	<p>今年度もコロナ禍のため学校教育推進会議が開催できませんでしたが、これまでの会議で地域・保護者の皆様から頂いたご意見・ご要望を参考に学校改善に取り組んで参りました。そこで今年度は次の4つの課題について取り組んで参りました。</p> <p>(1) 地域と学校が連携したボランティア活動の活性化 幸区役所、地域主催のイベントに本校も参加させていただき繋がりを深めることが出来ました。(幸区主催高校生アンケート、スマホ教室、御幸公園観梅会 等)</p> <p>(2) PTA活動の活性化 今年度はPTA活動の活性化へつなげることはできませんでしたが、学習環境の整備、学校行事等で多大なる支援を頂きましたことに深く感謝申し上げます。</p> <p>(3) SNS利用における指導の強化 今年度より保護者宛での連絡に情報配信システムを活用させていただき、必要な情報を適宜配信させて頂きました。従来のプリント配付よりも迅速な連絡方法として今後も活用させていただきます。</p> <p>(4) 幅広い視野での専門教育の育成 大学、企業、行政と連携したキャリア教育プログラムを通して、様々な分野で活躍されている皆さんと接し、話を伺うことで将来の目標設定、学ぶこと・働くことの意義について考える機会を得ることが出来ました。</p> <p>その他にも、来年度から新しい学習指導要領のもとで教育課程がスタートいたします。本校でも令和4年度入学生からのカリキュラムを数年にわたり検討して参りました。基礎学力の定着を図りつつ、専門学科の学びを深めることで工業・理数のスペシャリストを今後も育成して参ります。さらにはICTを効果的に活用することで学びを深め、本校の専門教育をさらに高めて参る所存です。</p> <p>今後とも地域、保護者の皆様のご理解、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。(学校長)</p>